

岡山県感染症週報 2017年 第30週 (7月24日～7月30日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2017年 第30週(7/24～7/30)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第28週	2類感染症	結核	1名(80代 女)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名(O157:幼児 男)
第29週	2類感染症	結核	1名(70代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3名 (O157:幼児 男 1名、小学生 女 1名、30代 女 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(80代 男)
		梅毒	1名(60代 男)
第30週	2類感染症	結核	5名(乳児 女 1名、50代 男 1名、60代 男 1名、70代 女 2名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2名(O103:小学生 男 1名、O157:60代 女 1名)
	4類感染症	日本紅斑熱	1名(70代 男)

■定点把握感染症の発生状況






患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- 手足口病は、県全体で 519 名(定点あたり 10.72 → 9.61 人)の報告があり、前週より減少しました。
- ヘルパンギーナは、県全体で 112 名(定点あたり 2.33 → 2.07 人)の報告があり、前週よりわずかに減少しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 56 名(定点あたり 1.06 → 1.04 人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第28週に1名、第29週に3名、第30週に2名の報告があり、2017年第30週まで(～7/30)の累計報告数は21名となりました。岡山県では「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [日本紅斑熱](#)は、第30週に1名の報告があり、2017年第30週まで(～7/30)の累計報告数は2名となりました。この感染症は、病原体(日本紅斑熱リケッチア)を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は2～8日程度で、発熱、発しん、刺し口が3大特徴です。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、ダニに咬まれないように注意しましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[「日本紅斑熱」に注意しましょう。](#)』及び『[ダニが媒介する感染症に注意しましょう。](#)』をご覧ください。
3. [手足口病](#)は、県全体で519名(定点あたり10.72 → 9.61人)の報告があり、前週より減少しました。患者数は減少したものの、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市(13.55人)、岡山市(11.86人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で112名(定点あたり2.33 → 2.07人)の報告があり、前週よりわずかに減少しました。地域別では、真庭地域(3.50人)、倉敷市(3.45人)、岡山市(2.71人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、例年7～8月頃が流行のピークとなりますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。
5. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で56名(定点あたり1.06 → 1.04人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市(1.82人)、美作地域(1.67人)、岡山市(1.07人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、備中地域及び真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌(イチゴのように赤くブツブツしている舌)がみられることがあります。のどの痛みがひどい場合は、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけてください。就学前から学童期の小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↗	★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★
感染性胃腸炎	→	★★★	水痘	→	★
手足口病	↘	★★★★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	→	★★	百日咳	→	★
ヘルパンギーナ	↘	★★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↘	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

夏休みに海外へ渡航される方へ

夏休みに海外へ渡航される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症が多くあります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。

旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの乳など、火が通っていないものを食べることは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
 （狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

帰国した後に

- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

[夏休みに海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所）](#)
[夏休み期間中における海外での感染症予防について（厚生労働省）](#)

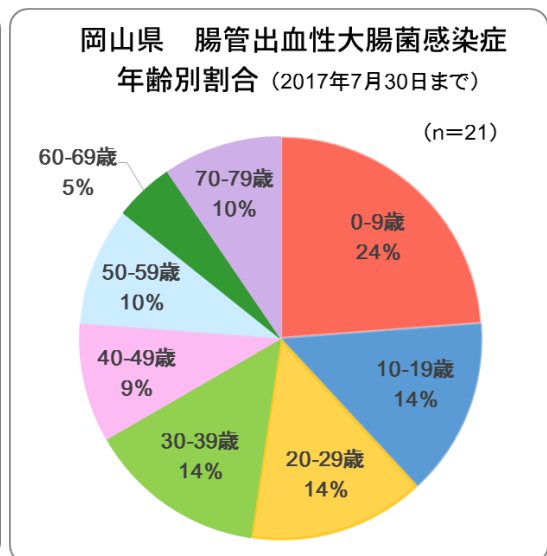
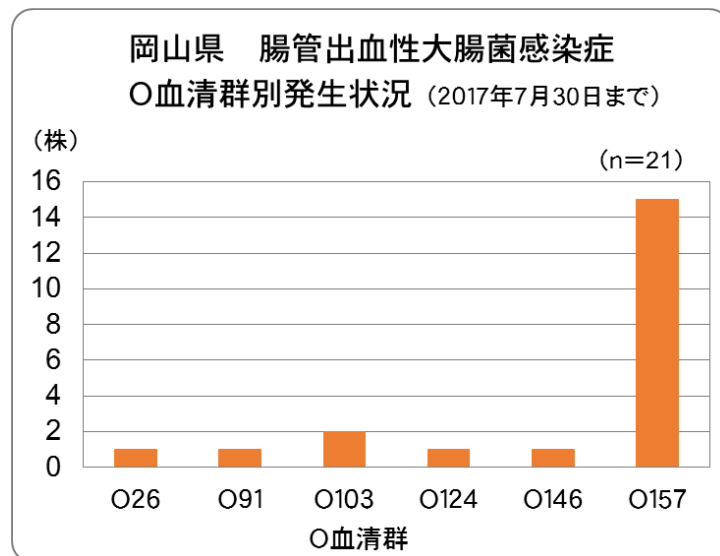
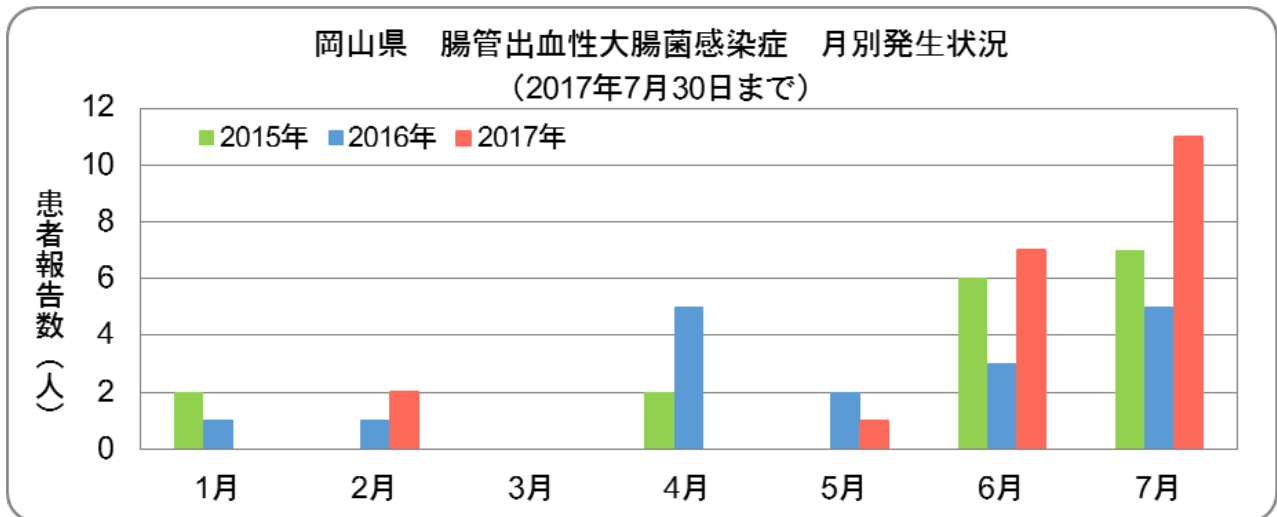
今週の注目感染症（1）

腸管出血性大腸菌感染症

【岡山県の発生状況】

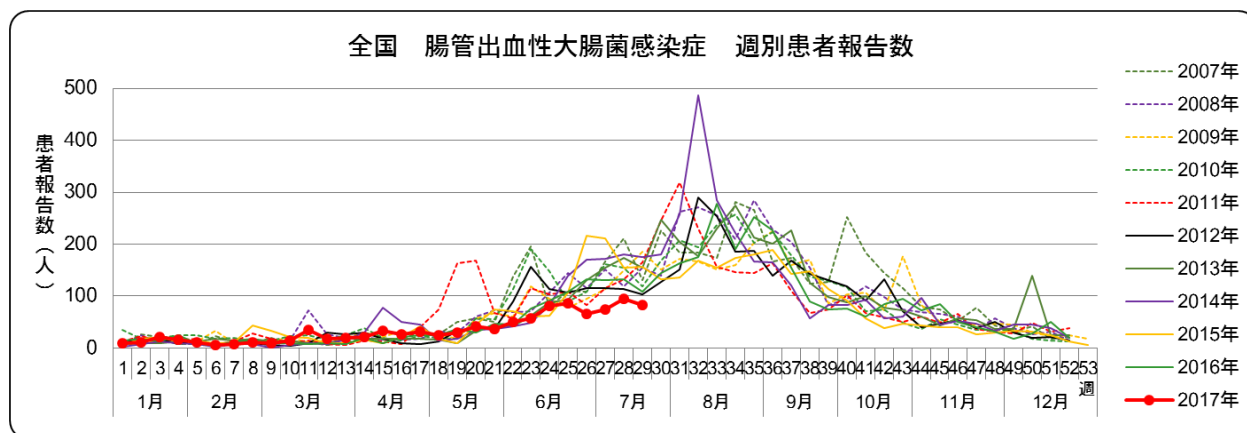
岡山県では、第28週に1名、第29週に3名、第30週に2名の報告があり、2017年第30週まで（～7/30）の累計報告数は21名となりました。今年5月までの累計報告数は、過去10年間の同時期と比較して少ない状態でしたが、6月に7名、7月に11名と急激に増加しています。2017年に検出された菌のO血清群は、O157が15株、O103が2株、O26、O91、O124及びO146が各1株で、O157の発生が多くなっています。年齢別では、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層で発生がみられます。2017年第30週までに、重症合併症の1つである溶血性尿毒症症候群（HUS）発症の報告はありませんが、抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので注意が必要です。

この感染症は、季節に関係なく年間を通して発生しますが、例年、夏から秋にかけて患者の発生が最も多くなります。この季節、細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。



【全国の発生状況】

2017年第29週まで（～7/23）の全国の累計報告数は、1,024名でした。過去10年間の同時期と比較して、少ない状態で推移していますが、保育施設や老人福祉施設などで集団感染事例が報告されており、患者報告数は増加傾向にあります。溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は、第28週まで（～7/16）に21例（累計報告数931名中）の報告があり、死亡例も2例報告されています。



[IDWR 速報データ 2017 年第 29 週 \(国立感染症研究所\)](#)

【主な感染経路】

O157をはじめとするペロ毒素産生性（志賀毒素産生性）の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、摂取することによって感染します。また、感染者の便には菌が排出されるため、人から人への二次感染も起こります。

【症 状】

多くの場合、3～5日の潜伏期をおいて、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状がでます。まれに下痢などの症状がでて数日から2週間以内に、溶血性尿毒症症候群（HUS）または脳症などの重症合併症を発症し、死に至ることもあります。

【予 防】

汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品は速やかに食べきるなどの注意が必要です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への二次感染については、手洗いの徹底等により予防することができます。特に、保育施設や老人福祉施設における集団発生が例年多いため、オムツや便の処理、手洗いなどに注意しましょう。

[腸管出血性大腸菌感染症とは \(国立感染症研究所\)](#)

[腸管出血性大腸菌 Q&A \(厚生労働省\)](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

- 「清潔」（菌をつけない）
 - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
 - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）
- 「加熱」（菌をやっつける）
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
（食肉の生食は避けましょう。）

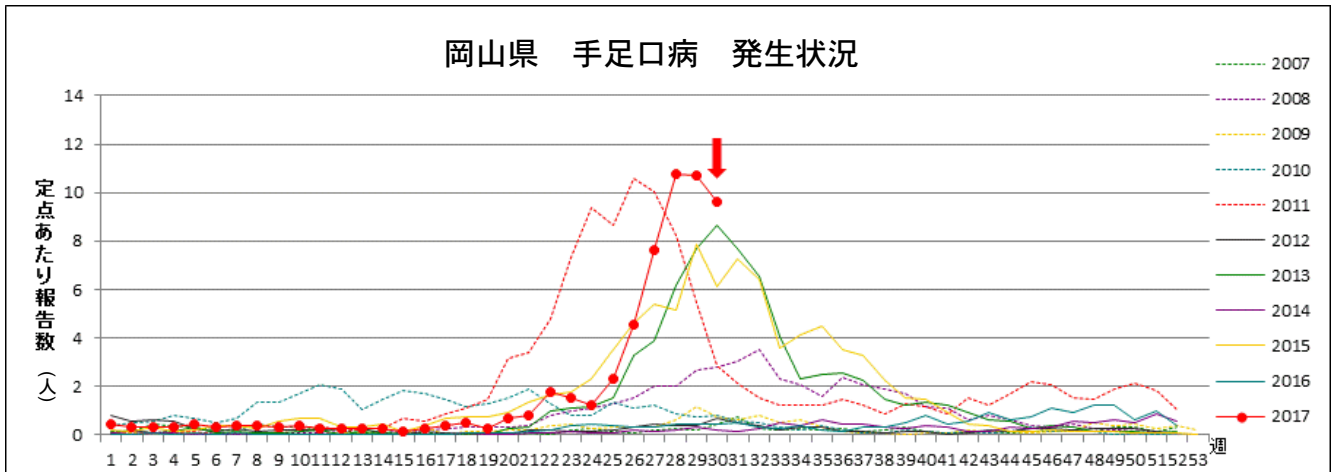
[食中毒予防の3原則 \(岡山県生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省\)](#)

今週の注目感染症 (2)

手足口病

【岡山県の発生状況】



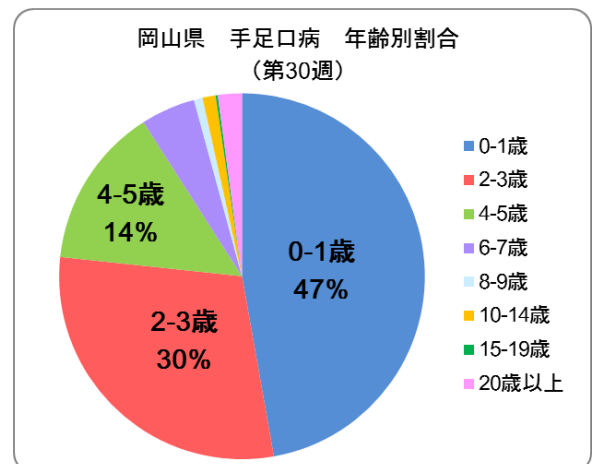
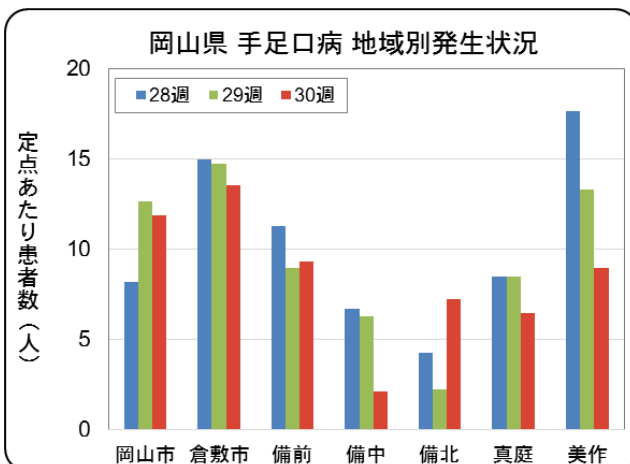
手足口病は、県全体で 519 名（定点あたり 10.72 → 9.61 人）の報告があり、前週より減少しました。患者数は減少したものの、過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市（13.55 人）、岡山市（11.86 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に備北地域（2.25 → 7.25 人）で大きく増加しており、発生レベル 3 の地域は、新たに備北地域が加わり、全地域となりました。年齢別では、5 歳以下の乳幼児が全体の 91% を占めています。通常、6 月頃から患者が増加し始め、7～8 月頃に流行のピークとなる傾向があります。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、手洗いや手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。

岡山県地区別 手足口病感染症マップ

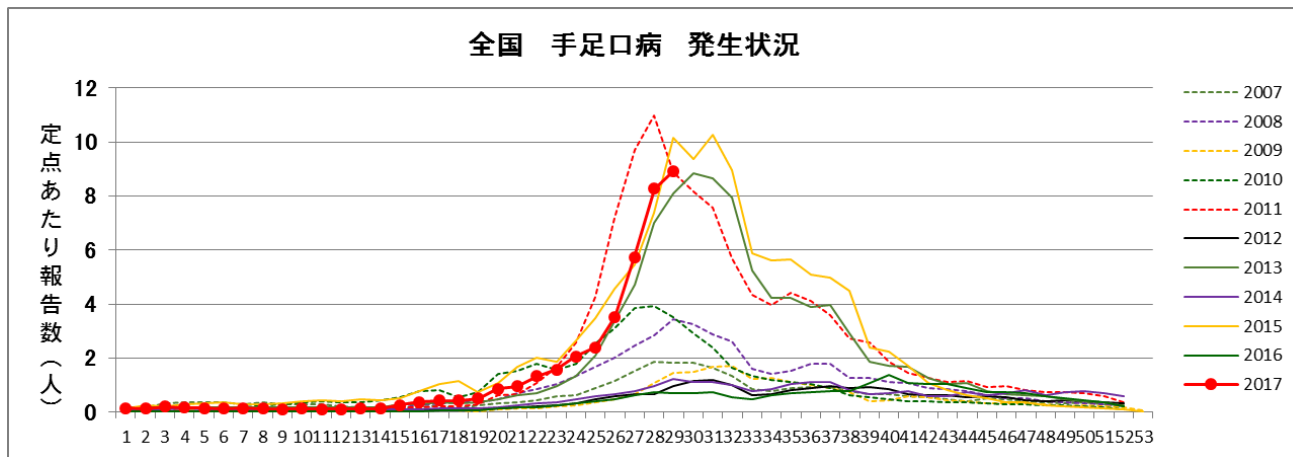
第 28 週 7/10～

第 29 週 7/17～

第 30 週 7/24～

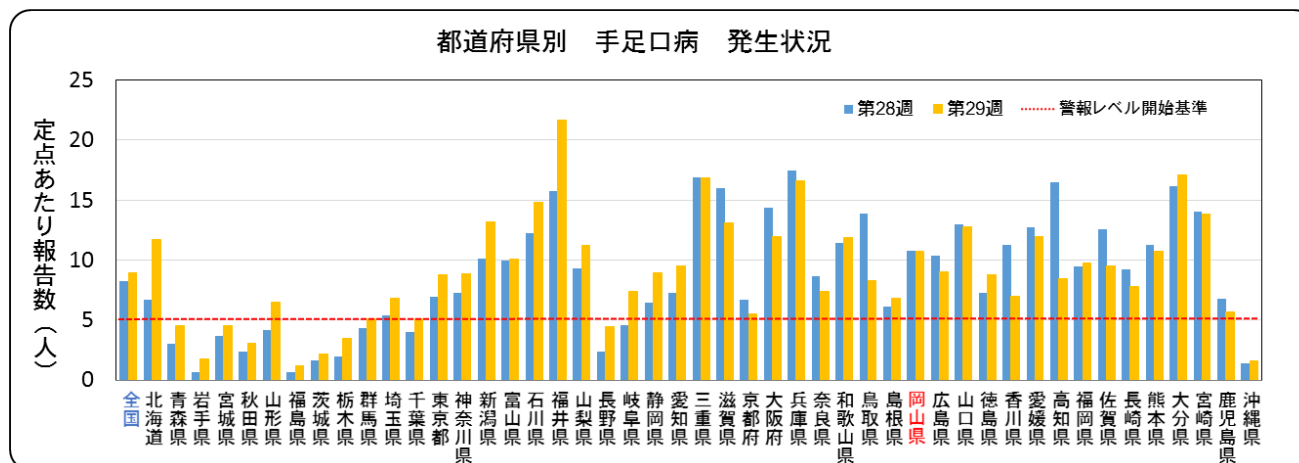


【全国の発生状況】



全国の第29週(7/17～7/23)の発生状況は、定点あたり報告数が8.93人であり、第13週(3/27～4/2)以降、増加がつづいています。都道府県別では、福井県(21.64人)、大分県(17.06人)、三重県(16.84人)の順で定点あたり報告数が多くっており、38都道府県で警報レベル(定点あたり5.00人)を超えました。

2017年7月28日までに報告された全国の手足口病患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルスA6型(58%)が半数以上を占めており、次いでエンテロウイルス71型・コクサッキーウイルスA16型(各6%)となっています。



[IDWR 速報データ 2017年第29週\(国立感染症研究所\)](#)

[IDWR 2017年第28号<注目すべき感染症> 手足口病\(国立感染症研究所\)](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人の咳やくしゃみで飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排泄されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。症状は、3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎や脳炎などを起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系の合併症など、重症化する割合が高いと言われています。患者との濃厚な接触を避け、手洗いや手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。

[手足口病とは\(国立感染症研究所\)](#)

[手足口病に関するQ&A\(厚生労働省\)](#)

手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています。

- ◆ どちらの感染症も、特別な治療法はなく、対症療法が中心となります。口の中に水疱ができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。
- ◆ 保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがいや手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防に努めましょう。
- ◆ 通常、予後は良好な感染症ですが、まれに重症化することがあります。お子さんの状態に注意し、症状が悪化した場合は早めに医療機関を受診しましょう。

保健所別報告患者数 2017年 30週(定点把握)

(2017/07/24~2017/07/30)

2017年8月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	1	0.05	5	0.31	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	0.13	1	0.07	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	1.04	15	1.07	20	1.82	7	0.70	-	-	4	1.00	-	-	10	1.67
感染性胃腸炎	276	5.11	75	5.36	72	6.55	45	4.50	24	3.43	16	4.00	15	7.50	29	4.83
水痘	27	0.50	4	0.29	6	0.55	-	-	17	2.43	-	-	-	-	-	-
手足口病	519	9.61	166	11.86	149	13.55	93	9.30	15	2.14	29	7.25	13	6.50	54	9.00
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	24	0.44	9	0.64	6	0.55	5	0.50	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	112	2.07	38	2.71	38	3.45	15	1.50	7	1.00	-	-	7	3.50	7	1.17
流行性耳下腺炎	20	0.37	8	0.57	7	0.64	4	0.40	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	2	0.50	1	1.00	3	3.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 30週(発生レベル設定疾患)

(2017/07/24~2017/07/30)

2017年8月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	1	0.05	5	0.31	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	0.13	1	0.07	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	1.04	15	1.07	20	1.82	7	0.70	-	-	4	1.00	-	-	10	1.67
感染性胃腸炎	276	5.11	75	5.36	72	6.55	45	4.50	24	3.43	16	4.00	15	7.50	29	4.83
水痘	27	0.50	4	0.29	6	0.55	-	-	17	2.43	-	-	-	-	-	-
手足口病	519	9.61	166	11.86	149	13.55	93	9.30	15	2.14	29	7.25	13	6.50	54	9.00
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	112	2.07	38	2.71	38	3.45	15	1.50	7	1.00	-	-	7	3.50	7	1.17
流行性耳下腺炎	20	0.37	8	0.57	7	0.64	4	0.40	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	2	0.50	1	1.00	3	3.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第30週 2017/07/24~2017/07/30)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	7	-	-	1	-	-	1	-	-	1	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	-	1	2	-	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	-	-	1	8	10	7	6	9	4	-	2	2	-	7
感染性胃腸炎	276	5	30	52	28	25	18	17	15	11	9	11	21	5	29
水痘	27	-	3	7	4	3	3	2	1	2	1	-	1	-	-
手足口病	519	5	50	190	89	64	34	40	18	7	2	2	6	1	11
伝染性紅斑	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	24	1	12	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	112	1	11	36	16	14	13	9	3	5	1	1	2	-	-
流行性耳下腺炎	20	-	-	-	1	4	3	3	3	1	1	1	2	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	1	-	1

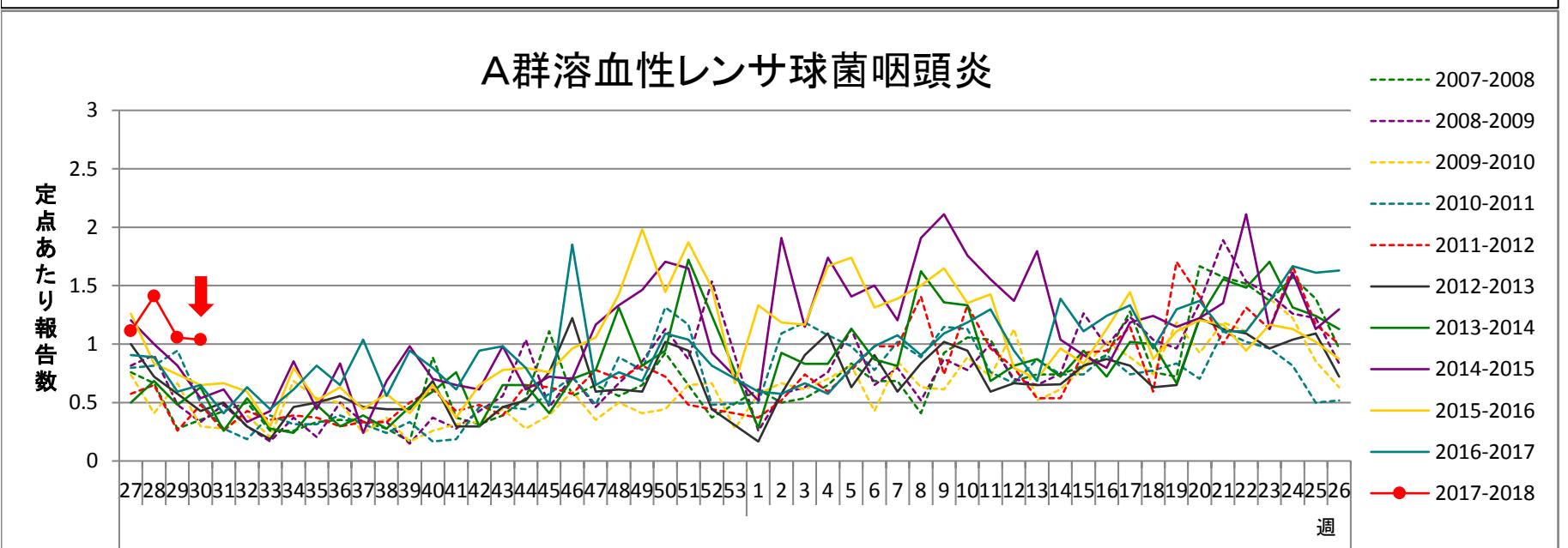
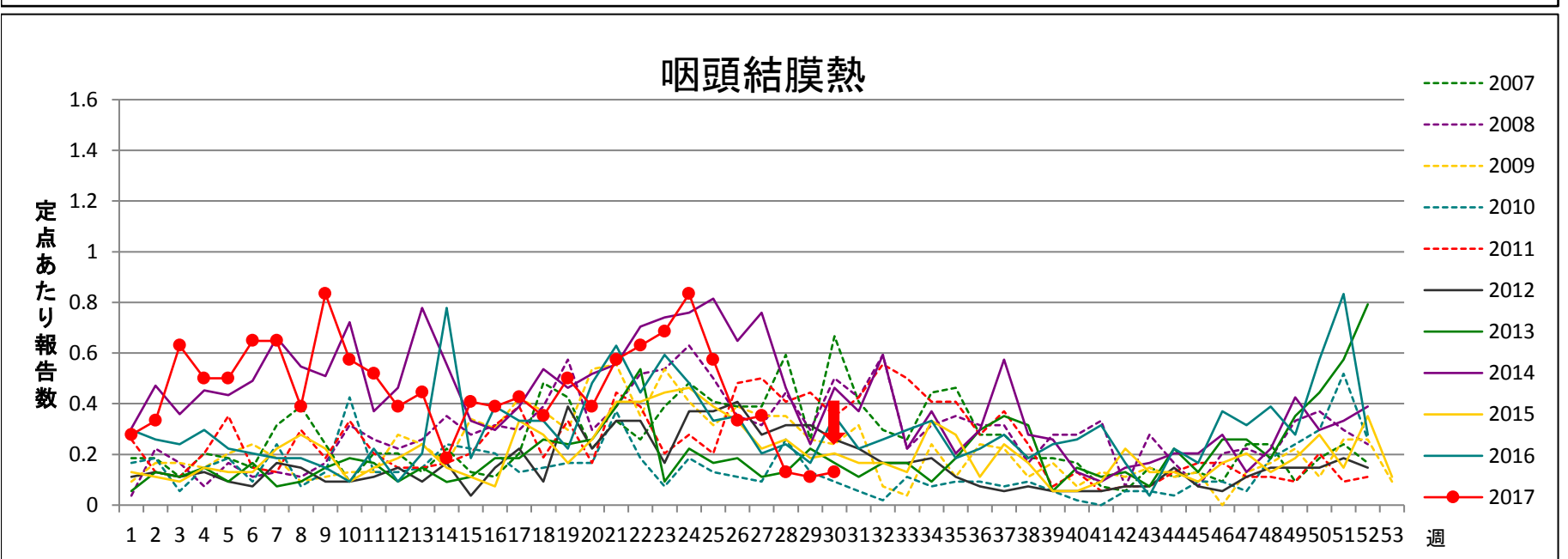
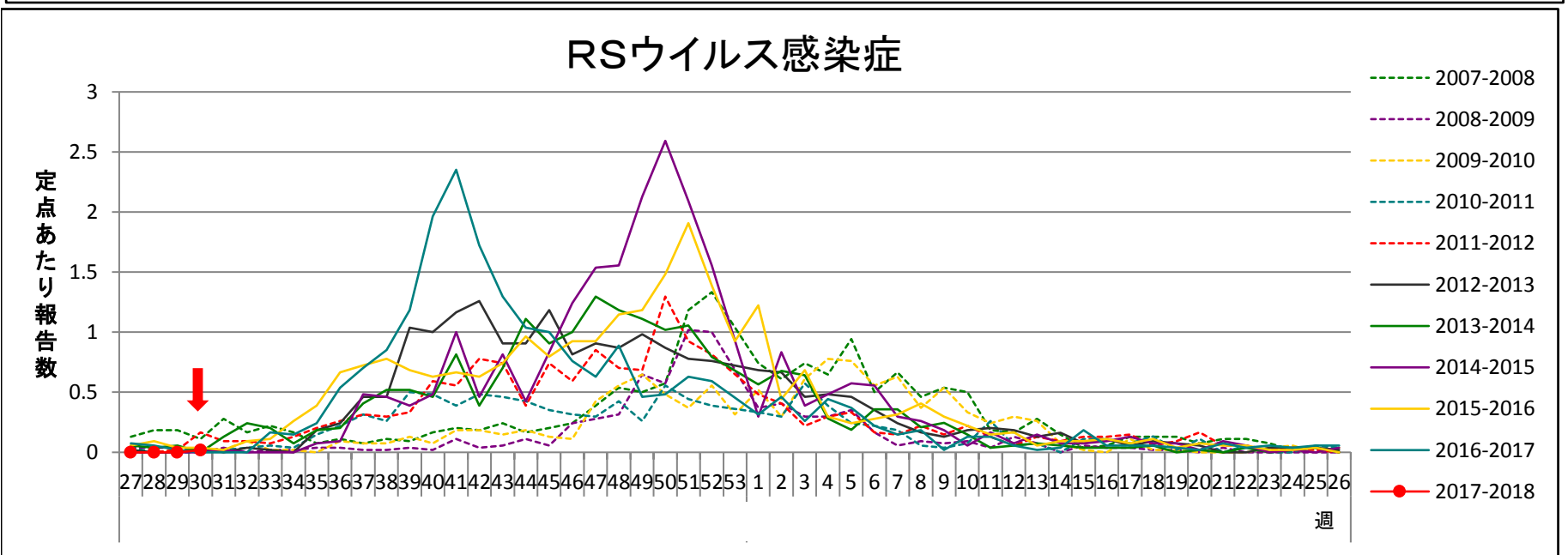
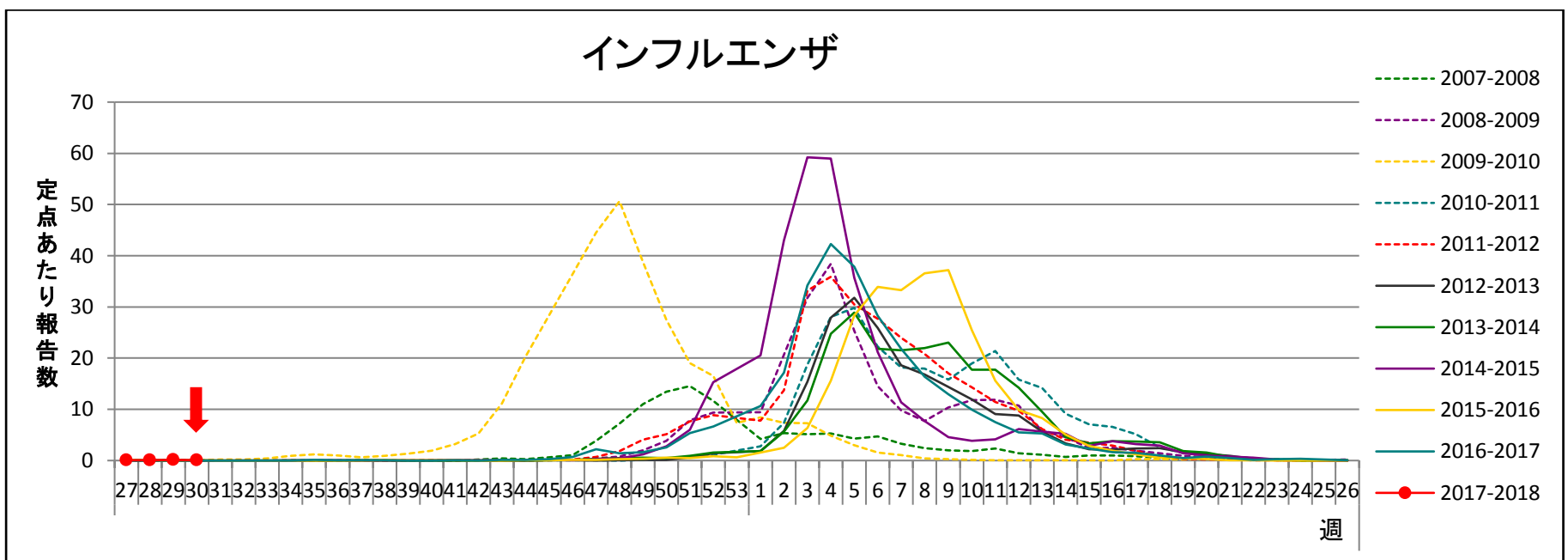
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

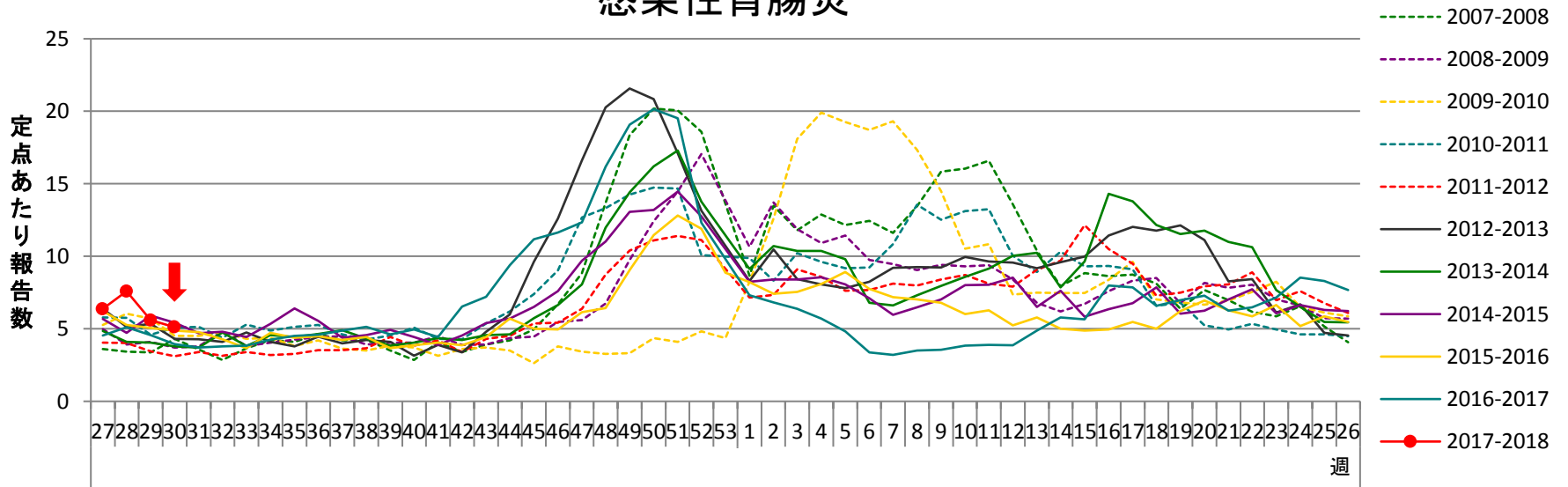
全数把握 感染症患者発生状況

2017年 30週

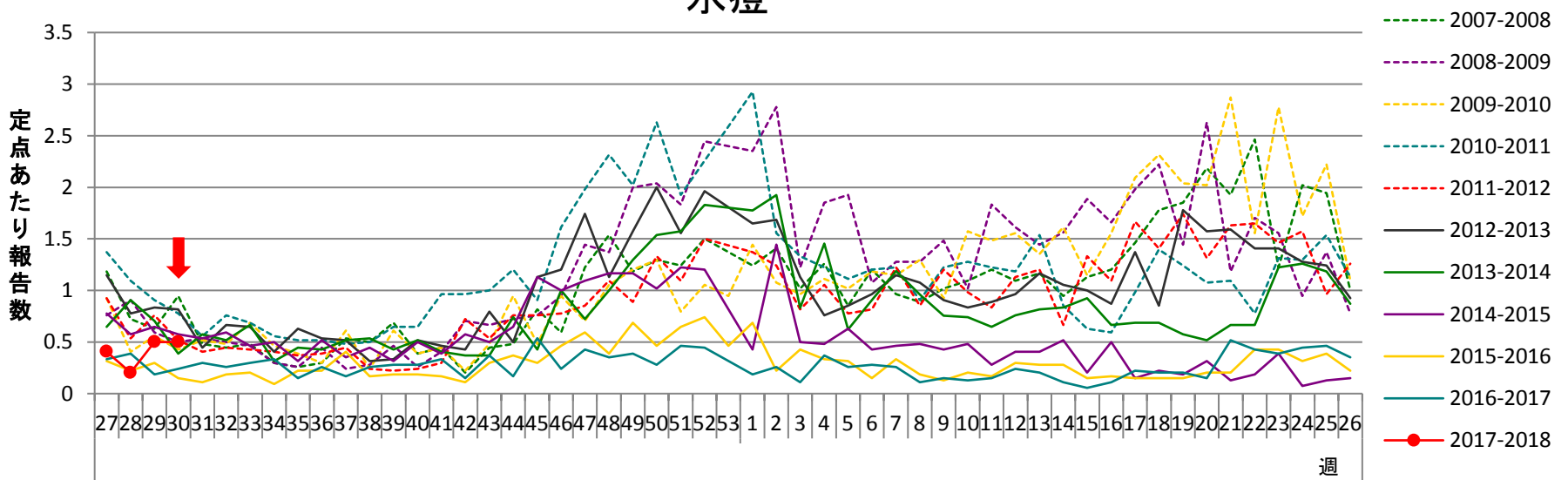
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	5	209	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	2	21	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	-	-	-
	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	1	2	5	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	12	26	-	-	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	15	18	ウイルス性肝炎	-	4	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	5	28	-	-	-
	急性脳炎	-	3	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	8	後天性免疫不全症候群	-	11	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	24	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	2	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	87	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	4	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



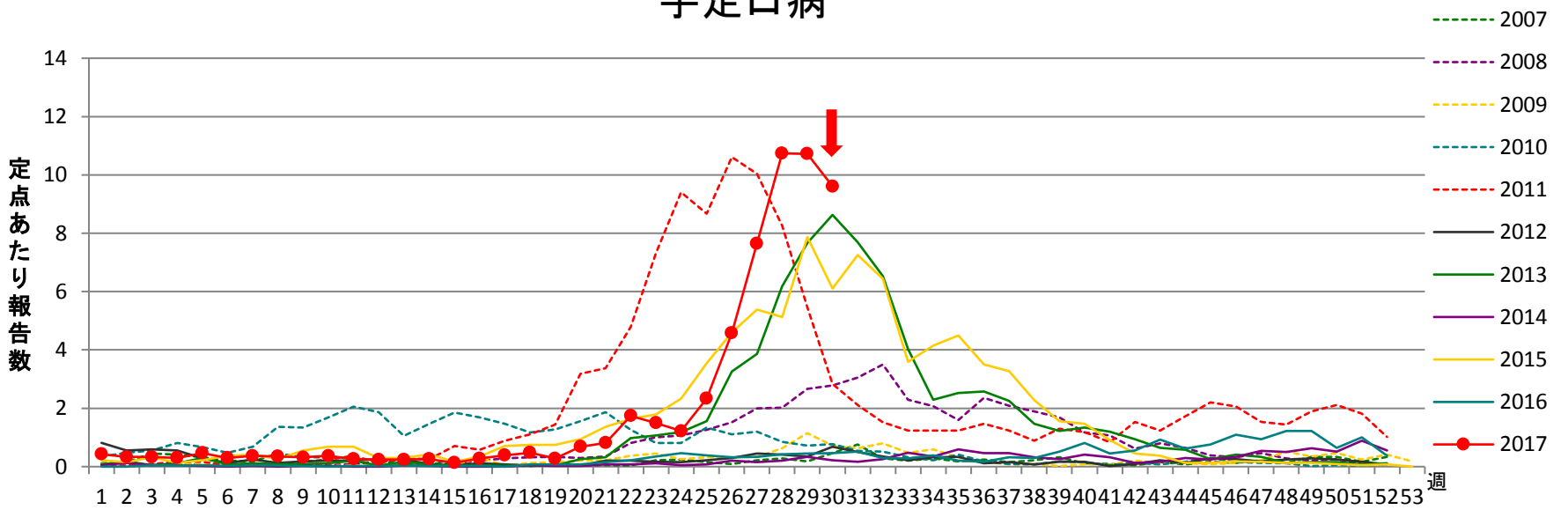
感染性胃腸炎



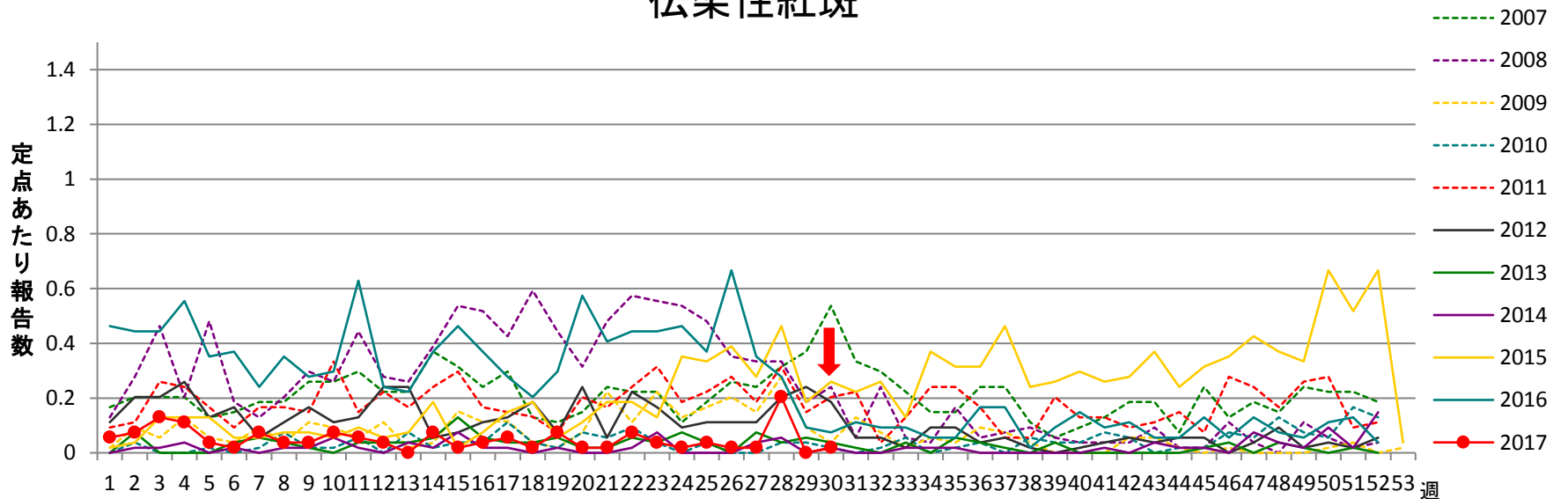
水痘



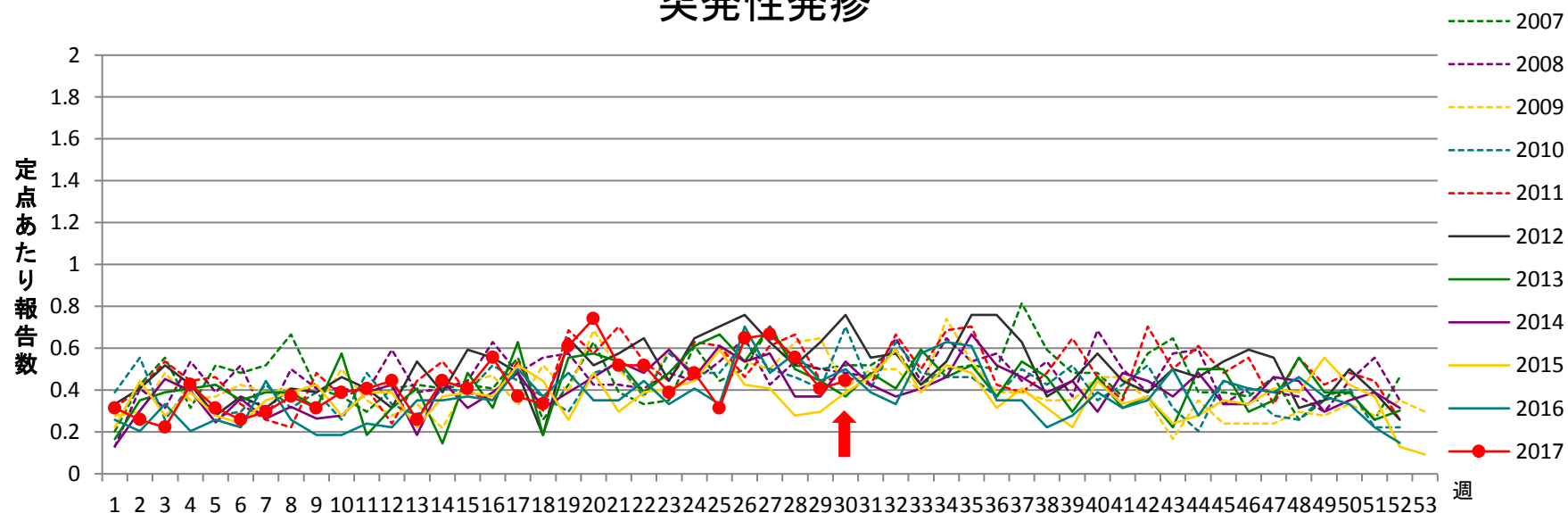
手足口病



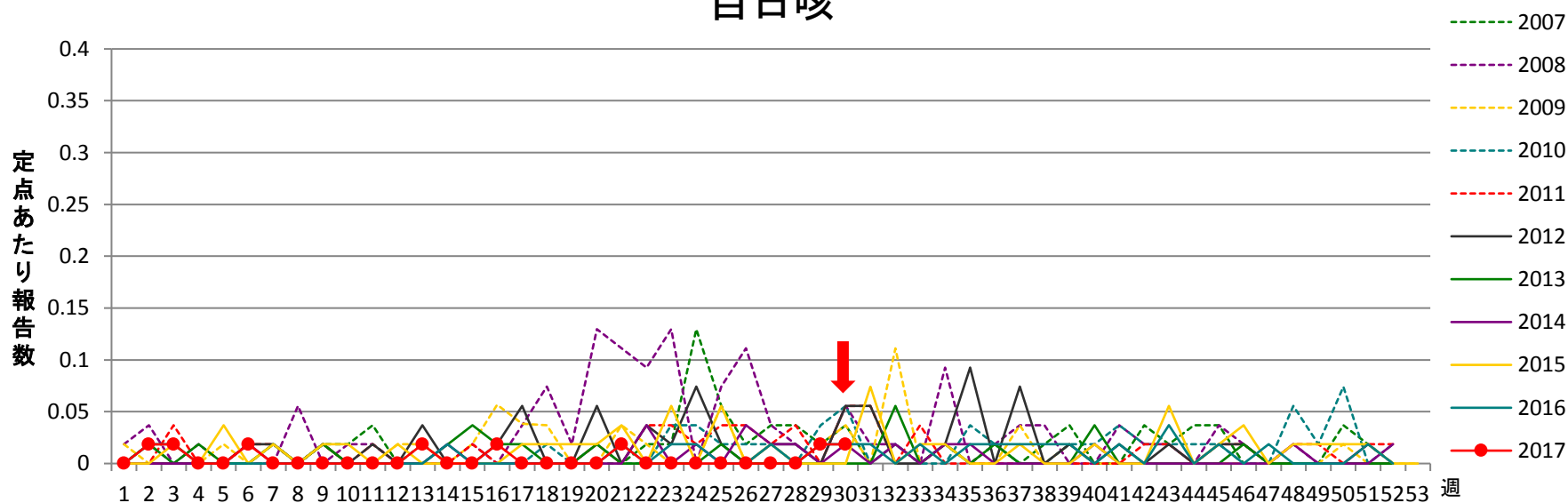
伝染性紅斑



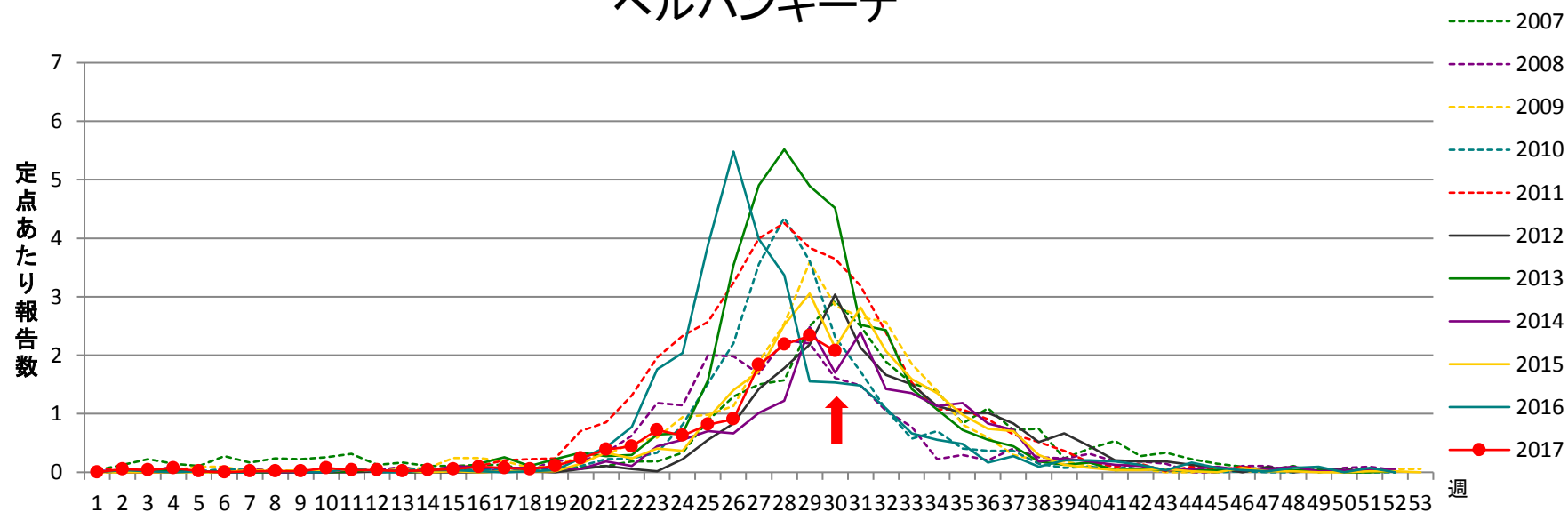
突発性発疹



百日咳



ヘルパンギーナ



流行性耳下腺炎

